

THE VANILAの音楽に触れた時、「**やっと出会えた**」って思った。
ずーっと探してたんだ、心の糧になる音楽を。
生きる指針となるようなメッセージを持ったロックを。
「熱」を感じられるバンドを。

THE VANILAのライブは、物凄くバンド！を感じてニヤリと心が踊ると同時に、涙が溢れそうになるという、おかしな事が起こる。

毎回、北野武監督の「BROTHER」のテーマ曲をバックにメンバーが登場し始まる。それは、まだ見ぬ友への序章。ライブ毎に選曲は異なるが、大抵「BOY」「FROM NOTHING」小山卓治の「傷だらけの天使」は演奏される。「BOY」は一曲目に歌われる事が多い。

伝えたい事の多くはまっすぐに伝わらないもの
誤解は孤独を招き
また自分を閉じ込めてばかりの 冷めた毎日
本当の夢にありつく時だって
たった一人じゃ何も出来ずはいはずさ
目が覚めて君の空は晴れてるはずさ
心の中の 固いギブスを今こころはずそう

「BOY」

一曲目のメッセージが聴き手に響くか響かないかで
THE VANILAと観客の出会いがの大半が決まる気がする。

この歌詞が、心のひだに触れる人間とは
長い付き合いになる予感さえある。

中盤で演奏される小山卓治の「傷だらけの天使」は

THE VANILAが自主企画のタイトルにもしている曲「From Nothing」の歌詞にある

”ここから始めよう 何もない真っ白なところから”の「真っ白=サンクチュアリ」の象徴なのだろう。
伊藤毅のみなぎる硬派なベースは、ストリートビーツ時代を髣髴させ、強い意思を受け取る。
安部川右亮のドラムは、パワフルであり、自分の事は全く喋らずも、会話の随所にその人が感じられる
ような人間味に溢れている。

人間味はTHE VANILAの世界を表現する上で重要な要素。

ヴォーカル渡辺灰二の歌の苛立ち、心もたなさ、喜びetcの心情や情景を雄弁に表現する大槻のギター。
彼のギターは聴くものの気持ちを解放させる、ものすごく自由な音色を響かせる。

確かな技術と感性の集合体。

ヴォーカル灰二は一極に集結させた半端ない集中力をそこに投げ、メンバーの志を更に高い位置に引き
上げ、場の空気を瞬時に濃厚なものに変える。

音を合わせるといふより呼吸を合わせているのでは・・・？と感じるほど
ブレイクや決めの瞬間に研ぎ澄まされた空気がある。

灰二の高揚と共にメンバーが、昇華していく様を目の当たりにし気づいたら
聴き手は最高潮の域へもっていかれてる事が殆どだ。

THE VANILA

渡邊 灰二 Vo & G
伊藤 毅 Ba

大槻 隆 G (maniac studio)
安部川 'minzoku' 右亮 Drs (tae)

STAY OR GO 特別編集

2008.03.14 発行

mail: stay_or_go1989@yahoo.co.jp

SUMIKO

THE VANILA official site

<http://www.thevanila.com/>

THE
VANILA